

$$\operatorname{ctg} \alpha + \operatorname{ctg} \beta = \frac{\sin(\alpha + \beta)}{\sin \alpha \sin \beta} \quad x_{1,2} = \frac{-b \pm \sqrt{D}}{2a}$$

$$u_i = R_i i_i + \sum_{j=1}^{j=2q} L_{i,j} \frac{d i_j}{dt} + \omega \sum_{j=1}^{j=2q} i_j \frac{d L_{i,j}}{d \varphi}$$

$$\sqrt{a^2} = |a| = \begin{cases} a, a \geq 0 \\ -a, a < 0 \end{cases}$$

$$\sin \alpha = 2 \sin \frac{\alpha}{2} \cos \frac{\alpha}{2}$$

$$M = \frac{1}{2} \sum_{i=1}^{i=2q} i_i \sum_{j=1}^{j=2q} i_j \frac{d L_{i,j}}{d \varphi}$$

New Tokyo Starts With Technology.

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

理系のシゴト

New Tokyo Starts With Technology.

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

東京都イベント特設サイト

<https://careerevent.metro.tokyo.lg.jp/>



@tocho_seisaku

東京都庁の試験情報やイベント情報などを発信しています。



東京都人事委員会事務局試験部試験課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話: 03-5320-6952-4
E-mail: S9000049@section.metro.tokyo.jp

 東京都人事委員会
TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT PERSONNEL COMMISSION

 TokyoTokyo

 VEGETABLE OIL INK 4(9)

$$\frac{\pi}{2} - \operatorname{ArcSin}(x) \quad u_i = R_i i_i + \sum_{j=1}^{j=2q} L_{i,j} \frac{d i_j}{dt} + \omega \sum_{j=1}^{j=2q} i_j \frac{d L_{i,j}}{d \varphi}$$

$$M = \frac{1}{2} \sum_{i=1}^{i=2q} i_i \sum_{j=1}^{j=2q} i_j \frac{d L_{i,j}}{d \varphi}$$

$$\sin \alpha = 2 \sin \frac{\alpha}{2} \cos \frac{\alpha}{2} \quad \operatorname{ctg} \alpha + \operatorname{ctg} \beta = \frac{\sin(\alpha + \beta)}{\sin \alpha \sin \beta} \quad x_{1,2} = \frac{-b \pm \sqrt{D}}{2a}$$

$$M = \frac{1}{2} \sum_{i=1}^{i=2q} i_i \sum_{j=1}^{j=2q} i_j \frac{d L_{i,j}}{d \varphi}$$

$$(a-b)(a^2+ab+b^2) = a^3-b^3$$

 TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT 東京都

FIELD

技術職の活躍フィールド

そのスケールは東京都ならではの。技術職が活躍している様々なフィールドをご紹介します。

鉄道



信頼され、支持される都営交通

交通局は、東京都が経営する地方公営企業として、都営地下鉄や都営バス、都電、日暮里・舎人ライナーなどを運営しています。これらは1日当たり約265万人のお客様が利用される、東京の都市活動や都民生活に欠かせない、重要な公共交通機関です。また、沿線地域の活性化など、地域社会とも協力しながら、安全・安心の確保を最優先に、質の高いサービスを提供しています。

橋梁



歴史的な価値を次世代につなぐ、橋梁の長寿命化

建設局では、1,230もの橋梁を管理しており、の中には勝鬃橋・永代橋・清洲橋などの重要文化財もあります。歴史的な価値を将来へ残すべく、予防型保全管理を導入し、橋梁の長寿命化に取り組んだり、都民の方が実感できる美しさ・ゆとり・潤い・安らぎのあるまちづくりを目指し、ライトアップなどの保全・活用事業を行ったりしています。

道路



都市の骨格として、東京の発展を支える道路

道路は、都民生活を支えるもっとも基礎的な社会基盤として、重要な役割を担っています。東京都は、首都圏三環状道路をはじめとする幹線道路ネットワークの整備推進や、道路と鉄道の立体交差化に加え、無電柱化や道路施設のバリアフリー化など、道路の質の向上にも取り組んでいます。

水素エネルギー



未来を拓くグリーンでレジリエントな世界都市・東京をめざして

環境局・産業労働局では、「未来を拓くグリーンでレジリエントな世界都市・東京」に向け、エネルギーの脱炭素化等を行っています。中でも、水素エネルギーの普及に向けては、燃料電池自動車や水素ステーションの整備に対する補助や、官民一体での推進チームを結成し、活動しています。

水門



東京の安全・安心を守る、高潮・津波対策

港湾局では、「海岸保全施設」を整備することで、各地の浸水被害を未然に防いでいます。その代表格である水門は、一つひとつが防災拠点である高潮対策センター及び第二高潮対策センターと二重化された光ファイバー通信網で結ばれており、遠隔操作が可能です。センターでは24時間365日体制で潮位を監視しており、非常時にも迅速な対応をとることができます。

都営住宅



豊かな住生活を実現・持続させる、まちづくり

都営住宅等は、都内に約26万戸あり、住宅に困窮する方などの生活を支えています。住宅政策本部では、良質な住宅ストックと良好な住環境の形成促進等に向けて、これらの維持管理や建替えを行っています。単に老朽化した住宅を更新するのではなく、不燃化や耐震化により防災性を高めたり、高層化して集約することで新たな用道を創出し、「まちづくり」に取り組んでいます。

水道



都民生活と首都東京の都市活動を支える水道

水道局は、水源林やダム等の水源施設から、浄水場、水道管、蛇口に至る水道システムを一元的に管理し、24時間365日、約1,370万人のお客様に安全でおいしい高品質な水を安定的に供給しています。また、将来にわたって都民生活と首都東京の都市活動を支えていくため、施設の更新や耐震化など強靱で持続可能な水道システムの構築にも取り組んでいます。

ICT



「スマート東京」の実現に向けて

東京都のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、都民の生活の質を向上させながら、先進都市としてさらに世界をリードするために、ICT職が新設されました。スマート東京の実現に向け、5Gネットワークの整備、データ共有や活用の仕組み作り、AIやロボット等の先端技術を活用した分野横断的なサービスの社会実装等を推進していきます。

WORK

技術職の幅広い業務

5つの職種と幅広い業務。
その全工程に身を置き、多種多様なキャリアを重ねる。

東京都の技術職には、土木・建築・機械・電気・ICTの5つの職種があります。
いずれの職種も、現場の事務所や本庁などでの勤務を経験し、技術職としてのキャリアを積み重ねています。

職種	業務内容	主な配属先
土木	道路・河川・港湾・上下水道の整備及び管理、市街地再開発・土地区画整理事業の実施や都市計画決定などに携わります。	本庁(建設局、都市整備局、港湾局、水道局、下水道局など)、建設事務所、市街地整備事務所など
建築	都市づくりや住宅政策など都市整備に関する企画、公共住宅建設などの計画及び設計監督、建築物の確認・許可などに携わります。	本庁(都市整備局・住宅政策本部・財務局など)、建築指導事務所など
機械	上下水道施設及び都営地下鉄の機械設備の維持管理や、道路、河川、公園緑地などにおける機械設備建設、環境保全対策に関する規制や指導などに携わります。	本庁(交通局・水道局・下水道局など)、車両検修場、浄水場、水運用センター、水再生センターなど
電気	上下水道施設や都営地下鉄、港湾、空港などの電気設備の維持管理や、道路、河川、公園緑地などへの電気設備建設、都庁LANの運営管理などに携わります。	本庁(交通局・水道局・下水道局など)、地下鉄電気管理所、浄水場、水運用センター、水再生センターなど
ICT	各局事業におけるデジタル活用に関するコンサルティング・解決策の企画・提案、各局における業務システム等の企画・運用などに携わります。	本庁(デジタルサービス局、その他各局システム所管部署など)など

「ICT」のシゴト

ICT デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、
都民が質の高い生活を送ることができる、「スマート東京」の実現を推進

「スマート東京」の実現に向けた取組方針

「電波の道」で、いつでも、誰でも、どこでも「つながる東京」を実現

5Gと先端技術を活用した都市実装を推進し、その成果を都内全域、全国へと展開



データ共有と活用の仕組みをつくり、行政サービスの質を向上

データプラットフォーム構築とデータを活用した分野横断的なサービスの社会実装を推進



DXを梃子にして都庁をデジタルガバメントに変える“バーチャル都庁構想”を実現

国や区市町村、民間企業等とのデジタル連携により、QOSを飛躍的・継続的に向上



東京都の技術職とは？

土木 建築 機械 電気

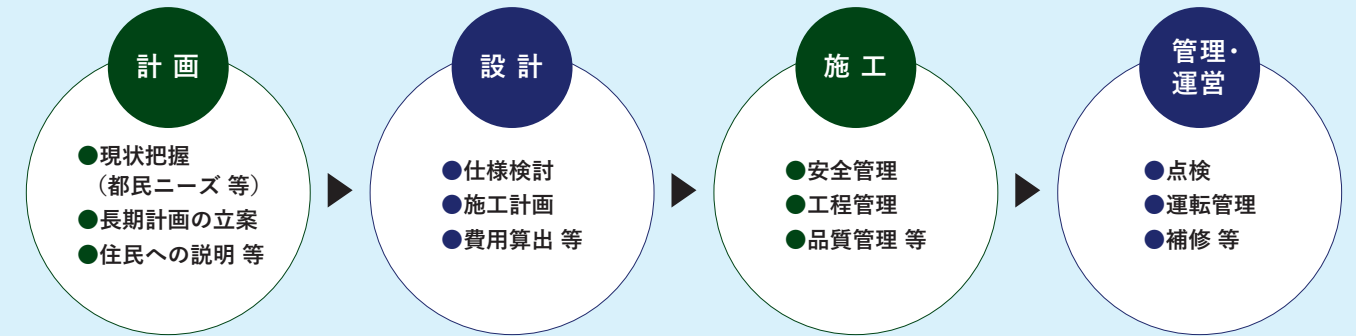
国や特別区との違いは？

東京都の一般行政職員約4万7,000人のうち、土木・建築・機械・電気の職員は約8,000人。道路や橋梁、河川、鉄道など多様な事業領域で、計画→設計→施工→管理・運営すべての工程に携わっています。東京都の技術職は、未来の東京をつくり、次世代へと引き継ぐ仕事です。

国の省庁は全国的な政策に携わる一方、住民に身近な行政は、できる限り地方公共団体に委ねることとされています。特別区は、住民に身近な仕事が多く、区道の建設や、ごみ処理・リサイクルなどを担っています。東京都は、住民と接する地域密着の仕事から、東京都全体、ひいては首都として日本を牽引するような仕事まで、幅広い活躍の場があります。

出典:東京都人事委員会「都職員の構成(令和4年4月1日現在)」

(例)公共事業の流れ



民間企業との違いは？

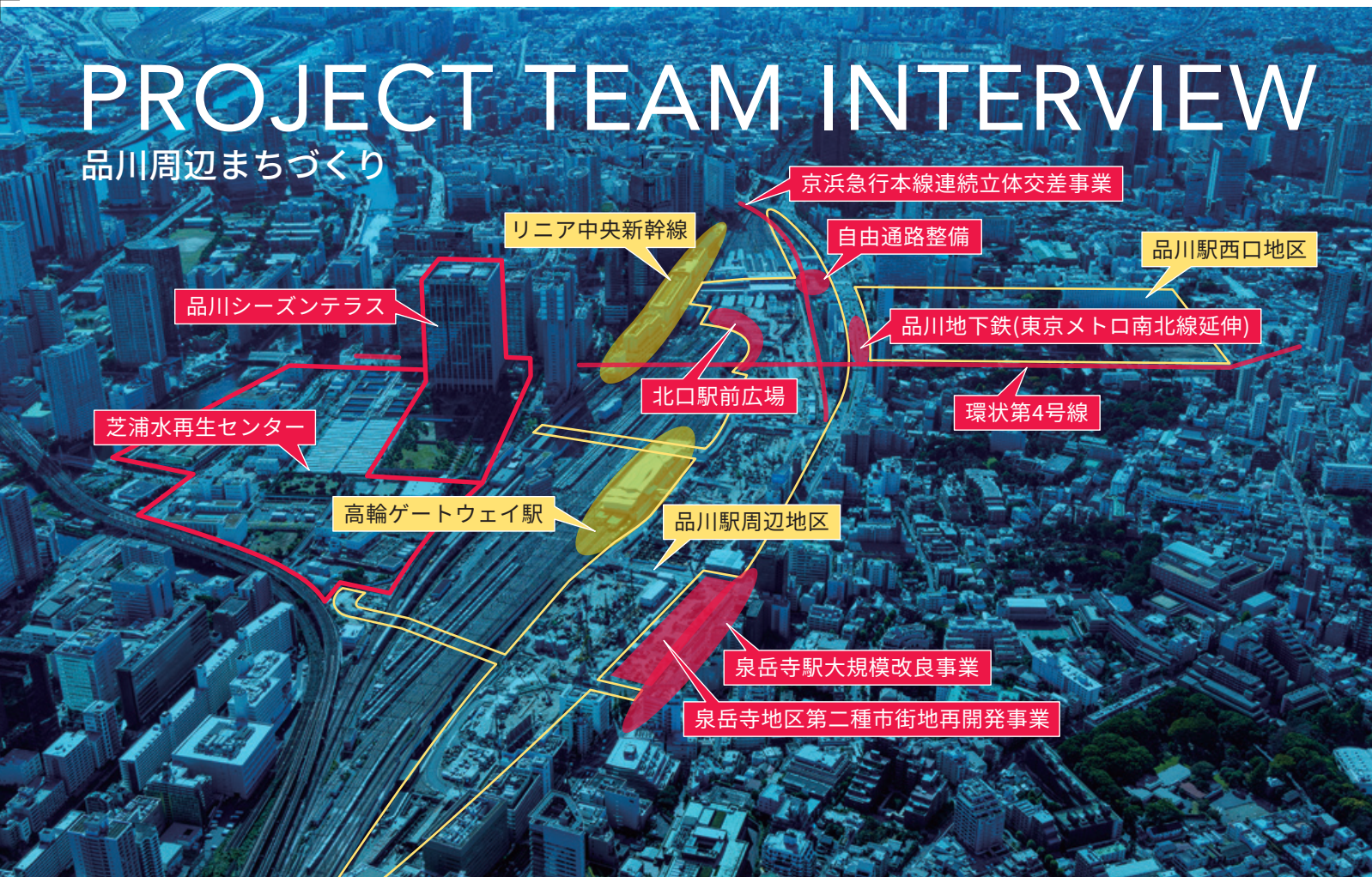
土木 建築 機械 電気

民間企業だけでは難しい、道路建設や上下水道の整備、公共施設の建設などのサービス提供を、ときに民間事業者などとも協力しながら行っています。都市の未来像を示し、社会全体を牽引することが、東京都の役割です。



PROJECT TEAM INTERVIEW

品川周辺まちづくり



他にはない魅力を広げ、新しい価値を築くまちづくりを

STORY

「新幹線をはじめとする様々な鉄道の交通結節点」「羽田空港への玄関口」「ビジネス・オフィス街」…。そんなイメージのある品川周辺エリアが、今、新しいまちへ生まれ変わろうとしています。品川駅や泉岳寺駅を中心にまちづくりを進める6人の職員の会話から、どのようにして事業を進め、まちの未来をつくりあげていくのかを紐解いていきます。



榎田 哲也

下水道局 計画調整部事業調整課
土木職
平成21年入都



中村 朋繁

都市整備局 市街地建築部建築指導課
建築職
平成13年入都



池田 顕太郎

都市整備局 都市基盤部交通企画課
土木職
平成29年入都



石田 和彦

交通局 建設工務部計画改良課
土木職
平成22年入都



宮田 紗季

建設局 道路建設部鉄道関連事業課
土木職
平成27年入都



淵上 俊太

都市整備局 都市基盤部街路計画課
土木職
平成29年入都

それぞれが担う仕事と果たすべき役割

淵上: 皆さん、今日は品川周辺のまちづくりに関する座談会ということで、よろしくお願いします。まずは、皆さんのご所属や担当されているお仕事の内容について教えてください。

池田: 私は土木職として都市整備局 都市基盤部 交通企画課に所属しています。都市整備局は、いわゆる“まちづくり”の中心的存在です。都市計画のもとに、道路・鉄道などの都市基盤や市街地の整備、また宅地開発や建築物に関わる指導など、都民生活や企業活動に関わる幅広い業務を担っています。中でも都市基盤部では、都市高速鉄道やバス事業への出資・助成や、上下水道・河川の計画、都市交通政策、航空政策、都市計画道路の計画、さらに最近では、「TOKYO BRT」(バス高速輸送システム)の推進などの業務を行っています。私が担当しているのは、鉄道・新交通システムの整備などの鉄道ネットワークの充実を図るための取組であり、国土交通省の交通政策審議会答申において「事業化に向けて検討を進めるべき」と位置付けられた路線等について、国や鉄道事業者等の関係者と連携し、鉄道事業の計画を推進しています。

石田: 私は交通局 建設工務部 計画改良課に、土木職として所属しています。交通局の事業は、一言で言うと公営交通の運営です。都営地下鉄や都バス、また路面電車も交通局が運営を担っています。建設工務部では、こうした交通機関における土木・建築施設の整備や維持管理などを行い、中でも計画改良課では、地下鉄の整備や大規模改良、エレベーターの工事などを担当しています。また、バリアフリーや耐震補強などの計画策定も私たちの仕事の一つです。さらに、地下鉄の延伸などの事業計画は、池田さんの交通企画課と二人三脚で進めています。



榎田: 私もお二人と同じ土木職です。所属は、下水道局 計画調整部 事業調整課となります。下水道局のミッションは、日常生活や都市活動で発生する汚水をきれいに川や海へ戻すことと、大雨が降った際に道路や宅地が浸水しないよう、雨水を速やかに排除して安全を守ることです。計画調整部では、下水道施設の計画策定や、その事業認可の申請、さらには技術開発などを行っています。中でも、事業調整課の仕事は、下水道施設の計画の策定や変更、下水熱利用などの策定、開発事業者との調整等を行っています。

宮田: 私の所属は、建設局 道路建設部 鉄道関連事業課です。皆さんと同じ、土木職として従事しています。建設局では、幹線道路などの道路ネットワークの整備を進めています。一方で、水害から都市を守るための河川の整備や、防災の拠点となる公園の整備なども建設局の仕事で

す。道路建設部では、道路や橋梁の整備を担当し、中でも私は鉄道立体化事業を担当しています。開かずの踏切をなくして道路交通の円滑化を図るため、現在、西武新宿線や京王線など6路線、7か所で連続立体交差事業を進めています。

中村: 私は、このメンバーの中で唯一の建築職ですね。現在は、都市整備局 市街地建築部 建築指導課に所属しています。都市整備局は、先ほど池田さんが話されていたように、都市計画の要となる部門です。まちづくりガイドラインの策定と見直しのもとに、インフラ整備全般から、まちづくりを戦略的に誘導しています。市街地建築部では、延べ面積50万平米ほどの大きな建築物から小笠原地方などの建築物までを管轄し、その開発工事などの調整を行います。中でも私は建築指導課の一員として、建築基準法などの法律をベースに、耐震性能や防災性能の向上、バリアフリーなどを促進しています。

淵上: 皆さん、ありがとうございます。私は、土木職として、都市整備局 都市基盤部 街路計画課に所属しています。都市基盤部までは池田さんと同じです。池田さんが鉄道ネットワークの強化を推進されている一方で、私が担当しているのは道路や歩行者ネットワークの強化です。街路計画課は、都市計画道路を管轄し、中でも「優先整備路線」と呼ばれる道路の整備に向けた都市計画手続きを行っています。新宿や品川などのターミナル駅周辺における交通結節機能の強化や歩行者の回遊性の向上を図るため、都市基盤の再編・整備の計画を推進しています。

品川周辺の活性化に向けた取組

宮田: 皆さん、様々なフィールドで活躍されているんですね。実際に、今回のテーマとなっている品川周辺のまちづくりにおいて、どんなお仕事をされているのですか？

池田: 先ほど話しました交通政策審議会答申に位置付けられた路線の一つに「品川地下鉄」があります。具体的には、東京メトロ南北線の白金高輪駅で線路を分岐させて品川まで延伸し、国道15号の地下に新たに地下鉄品川駅(仮称)を新設するという計画です。2030年代半ばの開業を目指して取り組んでおり、現在は都市計画及び環境影響評価の手続きを進めています。また、品川駅は、リニア中央新幹線の始発駅としても注目されていて、国際競争力の強化の拠点でもあります。品川地下鉄が開業すれば、六本木などの都心部とのアクセスの利便性も向上しますので、東京の地下鉄ネットワークのさらなる充実はもちろん、東京都全体の活性化にも貢献できるのではないかと考えています。

石田: 私は、品川駅からは少し離れますが、都営浅草線の泉岳寺駅の大規模改良工事に携わっています。現在、品川北周辺地区では大規模な区画整備が進んでいます。もともと泉岳寺駅の周辺は人が増加していて、さらにこうした開発が行われると現状の泉岳寺駅のホームの広さでは、乗降客の増加に対応しきれません。そのため、ホームの拡張とコンコースの拡張、エレベーターの増設などを行うことで、安全性や利便性の向上を図っています。また、現在の泉岳寺駅は、道路の幅をいっぱい使用して構築されているため、道路だけでは拡張する余地がありません。そこで、泉岳寺駅に近接する再開発事業の区域内に駅の拡張スペースを確保することで、大規模改良事業が実現しました。こうしたまちづくりと一体化した駅の改良は、この事業ならではの特徴だと感じています。

榎田: 下水道局で行っているのは、水再生センター(下水処理場)の上部利用です。水再生センターは広大な敷地を必要としますが、主に地表面と地下を利用するため、上部は活用されることが多く、都心の貴重な空間となっています。そこで、老朽化した施設の再構築に合わせて、周辺まちづくりとの連携・貢献や、資産の有効活用により安定的に収入を得ることを目的に、水再生センターの上部を民間業者に貸付け、上

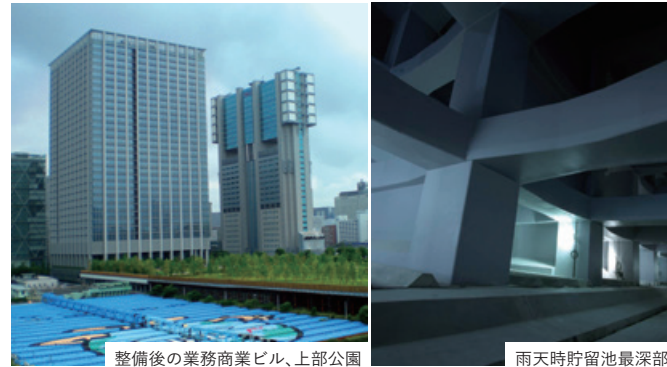


部ビルにオフィスフロアを所有するスキームで事業者を公募し、上部利用を図りました。このスキームにより、芝浦水再生センターに「品川シーズンテラス」が誕生しました。また、「雨天時貯留池」と呼ばれる芝浦運河の水質改善のための施設を品川シーズンテラス下部に整備しました。さらに、品川シーズンテラスでは、下水熱の冷暖房への利用や、下水再生水をトイレ洗浄水に供給するなど、環境に配慮した取組も積極的に行っています。こうした事業の調整も、私の担当している仕事の一つです。

宮田: 皆さん、一言で品川周辺と言っても、本当に色々なことに携わられているんですね。建設局では、京浜急行本線の泉岳寺駅から新馬場駅間の連続立体交差事業を行っています。北品川駅周辺にある3か所の“開かずの踏切”をなくすことで、道路や鉄道の安全性の向上だけでなく、鉄道によって分断されていた地域の一体化による、新しいまちづくりも目指しています。また、品川駅の東西の行き来を円滑にするための環状4号線の整備も、建設局の大切な事業です。そんな中、私が携わっているのは、京急線の連続立体交差事業です。現在、京急線品川駅では2階にあたる部分で鉄道が走っているのですが、それを地上に降ろし、線路を1階、改札などを2階とします。その後、東西自由通路が西側に延伸される予定でして、これにより品川駅の東西がデッキレベルで繋がり、バリアフリーに配慮した歩行者ネットワークが形成されます。

中村: 私の場合は皆さんと少し異なり、一つの事業に特化しているのではなく、“建築”という面から幅広く関わっています。品川周辺のまちづくりで言うと、例えば、品川駅北口の改良工事やリニア中央新幹線駅工事、京急駅改良工事における耐震・耐火性能や避難安全検証、さらにはバリアフリーなどに関する指導です。この辺りは池田さん、宮田さん、洲上さんともつながってきますよね。また、石田さんが担当している都営浅草線泉岳寺駅改良の建築指導にも関わっています。加えて、品川駅北周辺地区の商業施設、文化施設、宿泊施設、オフィス、居住施設なども私たちの管轄となっているところです。

洲上: 私の仕事は「品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2020」に掲げている品川駅周辺地域の将来像を実現するため、周辺開発等における基盤整備の計画調整に取り組んでいます。また、先ほど宮田さんがお話されていた、東西自由通路の整備支援を行っています。当課では過去に「環状第4号線」の都市計画決定を行いました。環状第4号線の整備により、羽田、臨海部、六本木方面とのアクセスを向上させるなど、広域道路ネットワークの形成を図ります。品川駅は羽田空港に近く、今後はリニア中央新幹線の始発駅にもなることから、他の駅とは大きく異なる“広域交通結節点”へと変わっていきます。そのため、国内外の多様な交通のニーズに対応できるよう、高速バスなどのスペースも想定した「品川駅北口駅前広場」という新しい広場の都市計画決定も行いました。



大規模な計画だからこそ得られる やりがい

榎田: 品川周辺のまちづくりに携わる中で、感じるやりがいや苦労などがあれば、皆さんぜひ教えてください。

洲上: 環状第4号線や品川駅北口駅前広場などの都市基盤の整備は、まちづくりに合わせて進めていくことが重要です。そう考えると、私の行っている事業者や行政の方々との計画調整業務は、この仕事の最も肝になる部分だと思います。だからこそやりがいにつながっています。また、周辺開発等においては、自動車や歩行者の流れを考慮した道路、広場、自由通路、デッキなどの計画調整は難しいところですが、おもしろさでもあると実感しています。

宮田: 私も洲上さんと少し似ていて、関連する事業との調整が難しさでもあり、やりがいでもあります。池田さんや洲上さんのいる都市基盤部での計画を受けて、私たちが具体的な工事計画を立てていきますが、工事に当たっては人の流れを止めないようにしなければなりません。例えば、京急線は運行しながら新しい路線をつくりますし、その際には、隣のJRにも影響が出ないように進める必要があります。さらに、狭い区域の中でたくさんの事業者が工事を行いますから、工事工程の調整も大切です。その一つひとつを各事業者と話し合った結果、方向性が決まってくるとほっとしますね。

石田: 私も泉岳寺駅の改良工事に携わる中で、他事業者の方々との調整には難しさを感じています。交通局は、地下鉄や駅の改良など、何かに特化した事業が多いため、大規模なまちづくりと連携する機会が少ないんです。そのため、他事業者の工事と重複しないように調整していくことには苦労しています。その一方で、こうした大規模なまちづくりは、手を挙げたら必ずできるという仕事ではないので、貴重な経験をさせてもらえていると思うと、やりがいにつながっていますね。

中村: 確かに、やりがいと苦労は表裏一体ですよ。私は、鉄道、道路、建物などの計画に携わるあらゆる立場の方々から、多種多様な相談を受けています。その中には、歴史的建造物から近未来的なものまで本当に様々です。こうした広い範囲からの相談ごとの検討・対応を平等な目線を持って行わなければならない部分に苦労していますが、裏を返せばやりがいでもあると感じています。また、品川は広域交通結節点として、唯一無二の優位性を持ったまちになるはず。そんなまちの成長に携わられていることも、モチベーションにつながっています。

池田: 私は現在、東京メトロと連携し、都市計画及び環境影響評価の手續を進めています。都市計画としては、周辺の土地の状況等を踏まえた



地下鉄品川駅の位置や鉄道ルート等の検討、また、環境アセスメントとしては、地下鉄新設による環境に与える影響について調査や予測、評価を行い、それぞれ地域住民の方々に説明する準備を進めています。説明会等を通じて住民の方々のご意見を伺いながら、理解を得られるよう事業を進めていかなければならないのは、難しいところですね。一方で、ご意見の中には新たな発見もありますので、住民目線での考えを深く知ることができるのは、この仕事の醍醐味でもあると感じています。

榎田: 皆さんありがとうございます。下水道局には、品川駅周辺の開発に伴う下水道管の移設依頼が事業者より数多く来ています。事業者との協議にあたり、様々な相談を頂くのですが、下水道は24時間365日休みなく稼働させなければなりません。汚水をきれいにすることや雨水を速やかに排除して安全を守る下水道の役割を果たしつつ、まちづくりにとの連携・貢献にも配慮しながら、事業スケジュールの調整を行うことに難しさを感じています。また、私はこれまで下水道事業単体で物事を捉えていましたが、この品川周辺のまちづくりを通じて東京都全体の動きを意識できたことで、自分の視野を広げることができたと実感しています。

まちづくりから生まれる新しい魅力

中村: 品川周辺のまちづくりを進めていくにあたり、皆さんがこの地域の未来に期待していることは何ですか？

池田: 私は、鉄道アクセスの利便性の向上だと考えています。実際に、品川地下鉄によって六本木と品川がつながると、10分程度も早くなる想定です。こうした新たなアクセスルートは、鉄道障害時の迂回路としても活用できますし、何より、東京都全体を強化できるのではないのでしょうか。

榎田: 確かにそうですね。品川周辺は東京湾や運河に面しており、空が開けたすばらしい環境にあります。この環境を活かしたまちづくりが大事だと思います。私は、こうした品川周辺の道路や鉄道整備、再開発事業が実を結んだ先で、都民の方々はもちろん、東京都以外の国内や海外から来られる方にとっても魅力的なまちになれば良いと思っています。

宮田: 私がこれからの品川周辺の地域に期待したいのは、安全性の向上です。まずは、“開かずの踏切”をなくすことで、安全・安心かつ円滑な交通を実現したいですね。また、連立事業により京急線品川駅が地平化し

た後、東西自由通路が西側に延伸され歩行者ネットワークが広がるなど、様々な周辺事業に波及していくと考えています。その先に、新しい品川の街並みが誕生すると思うとワクワクしますよね。

洲上: そのお気持ち分かります。品川駅は、既存の鉄道や新幹線、バス、タクシーに加え、将来的にはリニア中央新幹線、品川地下鉄、さらに次世代モビリティも計画されています。そのような多様な交通を結ぶまちづくりに携われることはもちろん、どのようにまちが出来上がっていくのか、その成長過程も楽しみです。また、自由通路やデッキなどにより東、西、北のまちがつながることで新たな価値が生まれ、これからの日本の成長を牽引する品川駅になることを期待しています。

石田: 私は泉岳寺駅の話にはなりませんが、エレベーターによる車椅子ルートの確保や、ホームの拡幅工事によって、宮田さんと同じように安全・安心や利便性の向上に貢献できたら嬉しいですね。また、周辺地域の再開発とあわせることで、ビジネスでの利用だけでなく、お休みの日に遊びに行きたいと思える地域になればと思います。

中村: 皆さんありがとうございます。いいですね！私は、国際航空とリニア中央新幹線の結節点ということで、国際競争力の優位性がさらに高まるのではないかと期待しています。一方で、最近では高輪築堤が発掘されましたし、他にも江戸時代からの遺構が散見されますので、そういった歴史的な文化は守らなければならないと考えています。また、まちづくりに伴い、オープンスペースの設置や公園のカフェ併設などの計画もありますので、より一層魅力的なまちとして生まれ変わるのではないかと思います。本日は、ありがとうございました。



泉岳寺駅地区

MESSAGE.1

土木

道路を利用できるあたり前を、
守り続ける

鶴田 真人

建設局 道路管理部 路政課
平成30年入都 群馬県出身

※職員の所属等は令和4年12月時点の情報です。

入都理由を教えてください

大学時代に土木系の学部を専攻しており、就職活動中は学んだ知識を活かせる職種に就きたいと考えていました。そんな中、同じ土木職として東京都で働いている親戚がいたこともあり、東京都には土木の知識を活かせる環境があることを知りました。東京都について、いろいろと知るうちに、次第に興味を持つようになっていきました。特に印象に残っているのは、東京都主催の座談会に参加したときに聞いた、東京都には多種多様なフィールドがあり、様々な知識と経験が得られる。という話で、とても魅力的に感じたのを覚えています。東京都のことを知るにしたがって、首都東京で大規模な事業に携わりたいという思いが強くなっていきました。また、東京都は福利厚生が充実している点も最終的に志望を決めた理由の一つです。

現在の部署の仕事について教えてください

現在は、道路法に基づいた道路台帳の整備に関する業務を主にを行っています。道路台帳とは、道路区域や幅員、地形・地物、地下埋設物(管路等)、座標等の基礎的事項を把握している図面のことです。道路管理を円滑に遂行するためには欠かせないもので、測量会社や不動産会社からも頻りに複写交付の申請があります。道路台帳の整備・補正自体は、各建設事務所の管理課が外部へ測量委託して進めます。私の所属している道路管理部路政課では、各建設事務所が実施している、道路台帳に関連した予算の管理や基準要領等の作成・改定、システム保守といった業務を指導・調整しています。

現在の仕事のやりがいについて教えてください

道路台帳の作成に携わることは円滑な道路管理に携わることであり、ひいては都民生活を支える仕事でもあります。そのような重要な業務に携わっていると責任の重さを感じることもありますが、同時にやりがいも感じます。また、現在は公共サービスや業務のDX推進にも関わっており、これまで培ってきた業務経験を活かすことができた時や自分が成長できたと思えたときなどには喜びを感じます。東京都には無数にも思える数の道路が縦横無尽に走っており、それらを安全に管理するのは簡単なことではありません。都民の皆さんが当たり前道路を利用できる。このあたり前を続けることが、今の私にとって私の一番のやりがいとなっています。



公共基準点のGNSS測量(人工衛星を使用した測量)の様子

採用試験対策

試験勉強を始めたのは10月頃からです。教養試験は出題範囲が広く、すべてをカバーするのは難しいと考え、過去の出題傾向から範囲を絞り込んで勉強しました。専門試験については大学の授業と重なっている部分が多いので、基礎部分よりも応用問題に力を入れました。教養試験、専門試験ともに複数の問題集に手を出すのではなく、分野ごとに問題集を一つに限定し、それを繰り返し勉強したことがよかったと思っています。

MESSAGE.2

建築

住まいに困っている人へ、
安心を届ける

吉村 真緒

住宅政策本部 民間住宅部 安心居住推進課
平成30年入都 神奈川県出身

※職員の所属等は令和4年12月時点の情報です。

入都理由を教えてください

大学時代は都市計画系の研究室に所属し、主に東日本大震災の復興の現場で、地域のまちづくり計画の策定支援を行っていました。復興計画には法令や基準等いろいろな決まり事があります。一口に決まり事といっても解釈の仕方に違いがあり、その中で地域の最適解として計画を実現していくには自治体の役割や職員の働きが重要であることを強く実感しました。当初、就職先には都市計画コンサルタント等の民間企業を志望していたのですが、この経験を通して私のやりたいことを実現できるのは公務員だと思えるようになりました。中でも東京都は多様な現場を持っていること、国レベルの政策を実行できる環境があることに魅力を感じました。

現在の部署の仕事について教えてください

現在の部署では、住宅セーフティネット法に基づき、高齢者や障がい者など住宅に困っている方の入居が円滑に進むよう、そうした方々の入居を拒まない民間賃貸住宅の登録制度の運用や居住支援体制の構築を行っています。具体的には、登録していただける貸主の方への経済的支援や、住宅に困っている方への居住支援に係る企画などです。他にも、企画を実現するため、様々な補助事業を実施しているほか、貸主向けイベントに出展し、直接貸主の方に普及啓発を行うなど、企画から現場レベルの事業まで幅広く業務に取り組んでいます。

現在の仕事のやりがいについて教えてください

高齢化の進行やコロナ禍によって住宅困窮者に対する施策に関心が寄せられるなか、セーフティネット住宅の登録を増やすことが社会の役に立っていると実感しています。都民の方の声を直接聞くことも多く、そうした現場の声を企画に結びつけられた時にはやりがいを感じます。住宅セーフティネット制度は高齢者や障がい者のほかに外国人、子育て世帯など様々な属性を対象としているため、福祉や就労面など住宅分野を超えて幅広い視点で施策を考えられることも、この仕事の魅力だと思います。住宅は全ての人の生活基盤であり、私の仕事は多くの人たちの助けになることです。そんな仕事に誇りをもって毎日取り組んでいます。



貸主向け普及啓発イベントの様子

採用試験対策

民間企業を受験していたため、試験対策を行ったのは4月からでした。準備期間が少なかったため、面接対策を中心に東京都の施策を勉強しました。私は面接に苦手意識を持っていたのですが、大学の先輩に構成や話の組み立て等でアドバイスをいただいたことが大きかったと思います。誰でも面接は緊張しますが、自分の考えをしっかりと伝えることが一番大事だと思います。

MESSAGE.3

機械

安全で快適な交通手段を、提供する



小川 嶺太

交通局 車両電気部 木場車両検修場
平成28年入都 北海道出身

※職員の所属等は令和4年12月時点の情報です。

入都理由を教えてください

就職活動の際に、学んだ技術を活かせる分野を探していたところ、公務員に技術職での採用があることを知りました。そのなかで強く惹かれたのが東京都です。東京都には都心部、多摩地域、島しょなどの多種多様なフィールドがあること、さらには技術職として設備の維持、管理だけでなく、鉄道分野でも活躍できることにとても魅力を感じました。東京都なら技術職として存分に力を発揮できると思い入都を決めました。

現在の部署の仕事について教えてください

交通局は、都営地下鉄や都営バスをはじめとする公共交通機関の運営や、それに関連する多くの事業を展開しています。その中で、私は都営地下鉄大江戸線の車両を管理する「木場車両検修場」に所属し、法令に基づく様々な検査や作業の管理、車両が安全に運行するための計画の管理・作成等を行っています。また、近年はバリアフリー化や子育て支援の一環として、車両改修にも取り組んでおり、私も車両改修を計画的に実施するための運行計画や調整などに携わっています。電車の運行は、快適であること、安全であることが大前提です。万が一、車両に不具合が生じたときには一刻も早く復旧できるよう、日々緊張感をもって業務に取り組んでいます。

現在の仕事のやりがいについて教えてください

無事に検査を終えて送り出した車両が何事もなく車庫に戻ってくるのが理想ですが、電車は様々な伝送系や部品を組み合わせた複雑な構造のため不具合が発生してしまうこともあります。そのような時は、車両のデータを解析し、様々な検診を行い、原因を特定します。どんなに簡単に思える原因であっても気を抜くことは許されません。どのような不具合にも慎重に丁寧に対処していきます。自分が復旧した車両が多くの人を載せて無事に走っている姿を見たときは誇らしい気持ちになります。車両の安全性を確保することは、お客様の安全を確保することです。私の仕事は人の命に係わる仕事だと思うと緊張することもあります。その分達成感もあります。いつもと変わらぬ通常運行の実現こそが、この仕事の一番のやりがいです。



木場車庫内 車両留置の様子



採用試験対策

試験対策で心掛けたのは苦手分野の把握と基礎の理解です。教養試験は出題範囲が広く、すべてをカバーするのは難しいため過去問題を中心に勉強し苦手分野の洗い出しに努めました。専門試験については、学校の必須科目内容と重なる部分が多かったので、実習を通して基礎を理解することに注力しました。基礎を理解することで、苦手分野対策に時間を割くことができたのが結果につながったと思います。

MESSAGE.4

電気

水道水を安定的に届け、都市を支える



上田 大貴

水道局 建設部 施設設計課
平成28年入都 千葉県出身

※職員の所属等は令和4年12月時点の情報です。

入都理由を教えてください

もともと人の役に立つ仕事をしたいという想いがあり、公務員を志望していました。その中で、東京都には現場で大型のポンプ等を動かすための電機設備に携わるような仕事から、計画や設計として大きなプロジェクトを動かすような仕事まであり、その幅広さに惹かれました。携わる業務も大規模浄水場や地下鉄等、他自治体の電気職では関われないような規模の設備が数多くあります。一つの地域に根付きながら、このような仕事ができることにとても魅力を感じ、入都を決めました。説明会や試験時に出会った職員の人柄に魅力を感じたことも大きかったと思います。

現在の部署の仕事について教えてください

水道局は、都民生活と首都東京の都市活動を支える基幹ライフラインとして、安全でおいしい高品質な水道水を東京23区及び多摩地域26市町へ安定的に供給する事業を行っています。その中で、私は浄水場や給水所、水道管等の新設・更新といった、局施設の中でも大規模な施設の設計及び施工を行う「建設部」に所属し、他の職種と協力しながら電機設備の設計を担当しています。一口に電機設備といっても、その機能も役割も多種多様であり、最適な機能を持った設備を設置する必要があります。このため、条件に沿った電機設備を設計するため、水道局の事業計画や、施設運用を踏まえ、設備機器の仕様を検討し、工事を発注しています。

現在の仕事のやりがいについて教えてください

今の職場では、浄水処理の過程で発生する泥の処理に用いる脱水機の電気設備や、CO₂排出量を削減するための小水力発電設備等の設計に携わりました。どれも金額が大きいため緊張感をもって日々の業務に臨みましたが、その分無事発注できたときには大きな達成感がありました。こうした大規模案件を動かすことができるということは、技術職として大きな強みになると思います。また、携った設備は都民生活や環境問題に直結するため、自分の仕事が世の中の役に立っていると実感できることもこの仕事の魅力です。水道水は一般家庭でも企業においても欠かせないものです。安全でおいしい水道水を安定的に届けることで東京の都民生活と都市活動を支えるという使命感が私のモチベーションになっています。



脱水機を制御する電気設備



採用試験対策

試験対策では、取り組むのが遅かったこともあり、学習箇所を絞り込むことから始めました。具体的には、公表されている過去問題を解き、そこから自分にどんな知識が不足しているのか把握していきましました。教養試験については、把握した苦手科目の参考書を中心に学習し、専門試験は資格試験の問題集等を活用し、電気理論の勉強をしましました。私の場合、試験対策の時間が少なかったこともあり、苦手箇所の克服を中心にした勉強法が功を奏したと思います。

MESSAGE.5

ICT

ICTで、
東京をもっと暮らしやすく

寺田 一世

デジタルサービス局 戦略部 デジタル推進課
令和4年入都 石川県出身

※職員の所属等は令和4年12月時点の情報です。

入都理由を教えてください

大学時代からプログラミングスキルを活用して実社会の課題解決に貢献したいと考えていました。コンテストに参加するなどして様々な経験を積みましたが、個人で出来ることには限界があるという思いが強くなりました。自分の理想を実現できる環境はどこかと自問したとき頭に浮かんだのが公務員でした。なかでも東京都は幅広い事業領域を持っているため、社会の様々な分野でDXを推進することのできるフィールドがあると感じ、自分もこのメンバーの一員としてDX推進に貢献したいと思いました。「都政とICTをつなぎ課題解決を図る」という都庁ならではのICT職の壮大なミッションに挑戦意欲を抱いたことも大きかったです。

現在の部署の仕事について教えてください

現在はデジタルシフト推進担当として、DX推進に係る技術的支援を行っています。民間出身のデジタルシフト推進担当課長で構成されるエンジニアリングチーム・PMチーム・UI/UXチームにローテーションで所属し、各局からの支援依頼に案件単位で参画しています。このほかに、ICT職向けインターンシップやオフィス改良プロジェクトでの企画立案、システム開発の上流工程から下流工程まで幅広く携わっています。

現在の仕事のやりがいについて教えてください

都庁のICT業務を司るデジタルサービス局は様々な経歴を持ったメンバーが集まるプロ集団です。こうしたメンバーと一緒に仕事するのは刺激になりますし、日々新たな学びや気づきがあります。自分のスキルを活かせる場面があることはもちろんですが、新たなスキルを学び、ブラッシュアップする機会も数多く用意されており、仕事を通じて成長できる理想的な環境だと感じています。都政とICTをつなぎ課題解決を図ることは、例えるなら未完成のパズルのピースをはめ込むようなものです。まだまだ課題も多く、簡単な作業ではありませんが、パズルを完成できた時には大きな達成感があります。ICTで都民の暮らしを豊かにするという東京都の計画は始まったばかりです。やるべきことや考えることはたくさんありますが、その分やりがいもあります。ICTで社会貢献できる東京都は、私にとって最高の職場だと思っています。



柔軟な働き方ができるオフィス環境

採用試験対策

試験対策では、東京都が公表した戦略や方針を読み込んだり、都政の最前線である都議会のインターネット中継を視聴して勉強していました。また面接対策として、都政についてのアンテナを張り、最新動向を常に把握するよう心がけていました。

DIGITALTWIN PROJECT

白石 裕章

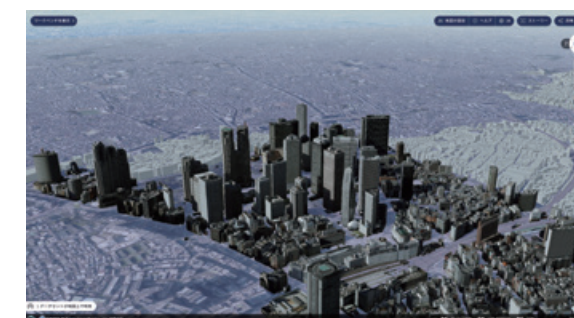
デジタルサービス局 戦略部

中村 友子

デジタルサービス局
デジタルサービス推進部

デジタルツイン実現プロジェクト事業紹介

東京都では「未来の東京戦略」において2030年に、あらゆる分野でのリアルタイムデータの活用が可能となり、意思決定や政策立案等で活用される「完全なデジタルツインの実現」を掲げています。「デジタルツイン」とは、センサーなどから取得したデータをもとに、建物や道路などのインフラ、経済活動、人の流れなど様々なフィジカル空間(現実空間)の要素を、サイバー空間(コンピューターやコンピューターネットワーク上の仮想空間)上に「双子」のように再現したものです。変化が激しく先行き不透明な社会情勢の中で、東京都は少子高齢化・人口減少、人流・物流の変化、気候変動の危機、首都直下型地震への備えなど多岐に渡る課題を抱えています。これらの課題を解決するためには、デジタルテクノロジーを駆使した変化への対応が不可欠です。東京都は、サイバー空間とフィジカル空間の融合によるデジタルツインを産学官一体で実現することで、課題解決と都民のQOL向上を目指します。防災・まちづくりなど様々な分野で活用が期待されています。また、実際に3Dデジタルマップに東京都が持つ様々なデータを重ねることでどのように見えるのか、わかりやすく示すための第一歩として、「東京都デジタルツイン3Dビューア」を公開しました。都バスや河川のリアルタイム情報などを重ね合わせてみることができ、今後さらにデータを追加予定です。



東京都デジタルツイン3Dビューアで見る新宿エリア

現在の仕事について

白石:「デジタルツイン」のプロダクトマネージャ、システムのディプロイメントの仕事を中心に担当しています。システムの仕様を関係者と話し合ったり決めたり、今後、デジタルツインを使って、庁内の業務が効率化・高度化できるように各局へ提案等も行っています。また、データ連携をするための交渉等も行っています。都民のQOLの向上につながるように、民間や有識者の方とも交流を図り、検討会を主催して意見交換も実施しています。

中村:データ活用担当として、庁内外のデータの活用促進に関わる業務に従事しています。具体的には、「東京データプラットフォーム(TDPF)」の構築に携わっています。TDPFの役割は、自然・インフラ・経済活動などから生まれたデータがこのTDPFに集まり、そのデータを様々な主体が容易に取得・活用できる環境を整えることで、都民のQOLを向上させるデジタルサービスを創出していくというものです。デジタルツインとの関係でいえば、TDPFは「都市のデジタルツイン」の基盤とも言えます。

やりがい、今後について

中村:データプラットフォームというシステムを連想されがちですが、システムがあるだけでは、本来の目的であるデータ流通には繋がりません。どんなサービスが求められ、それにどんなデータが必要なのか?ニーズを知ることが重要です。そのため顧客となる事業者・シビックテック・自治体等の方とコミュニティを作り、ユースケースやデータ取扱いルールなどを共に検討しています。前例のない難易度が高いプロジェクトではありますが、未来の東京を創るデジタルサービスの礎を造るという気概を持って取り組んでいます。

白石:デジタルサービス局は、各局を横断的に仕事ができます。「デジタルツイン」を通じて、庁内の多くの局の方と話し、各局の様々な業務も学べます。また、外部の方とも、頻りにコミュニケーションを取り、「デジタルツイン」の今後の発展に向けた様々な意見交換ができます。「デジタルツイン」は、デジタルサービス局のプロジェクトであるため、自分たちで可能性や進むべき道を考え、システムに反映するといったプロジェクトを自らリードすることができます。